

小さな力も集まれば4兆円

～ 日本最大規模のボランタリーチェーンCGCグループ ～

日本最大の小売業グループである、セブン&アイホールディングスグループ加盟店の年間売上高は約9兆円あります。一方、小規模のスーパーマーケットが集まり、全国各地で228社・3722店舗が力を合わせて4兆2,000億円もの売上高を実現しています。これが、日本最大規模のボランタリーチェーンであるCGCグループです。



(CGCグループのマーク)



ボランタリーチェーン（VC）とは、独立した小売店が同じ目的を持った仲間達と組織化して、チェーンオペレーションを展開している企業をいいます。加盟店を指導するチェーン本部はありますが、加盟店が主体となっているため、加盟店同士の横のつながりがあるのが特徴です。簡単に言うと、「1社ではできないことを、みんなで一緒になって取り組んだ方がより地域のお客様に貢献ができる」ということです。例えば、商品の開発や調達、物流、情報システム、販売促進、教育などを協同して行っています。

大企業と中小企業では、商品をメーカーから仕入れる際に、購買力の差（バイイングパワー）から仕入価格に差がでてしまいます。中小企業が大企業と同じ土俵で競争をするためには、それなりの工夫や仕組みが必要です。「お客様に良い商品をより安く、安定的に提供できるパワーを持つためには、全国規模でまとめることが必要」と考えて、全国各地の中堅・中小スーパーマーケットが東京・新宿にある株式会社「三徳」の呼びかけに応じて集結したのがCGCグループです。その本部機能を担っているのがシジシージャパンで、日本最大規模の協業組織とされています。

CGCの各種ブランドがついた商品、CGCが国内外で開発した野菜や果物、魚や肉など毎日の生活に欠かせない1200品目を超える商品がCGCグループに加盟している店の売場に並んでいます。北海道内ではアークスグループのスーパーマーケットがCGCグループに加盟しています。

資料番号:7-121-1

出所: CGCジャパン HP <http://www.cgcjapan.co.jp/>

日本ボランタリーチェーン協会 HP http://www.vca.or.jp/vc/vc_about.html